

DELIBERATIVE POLLING®

スタンフォード大学 *Center for Deliberative Democracy*

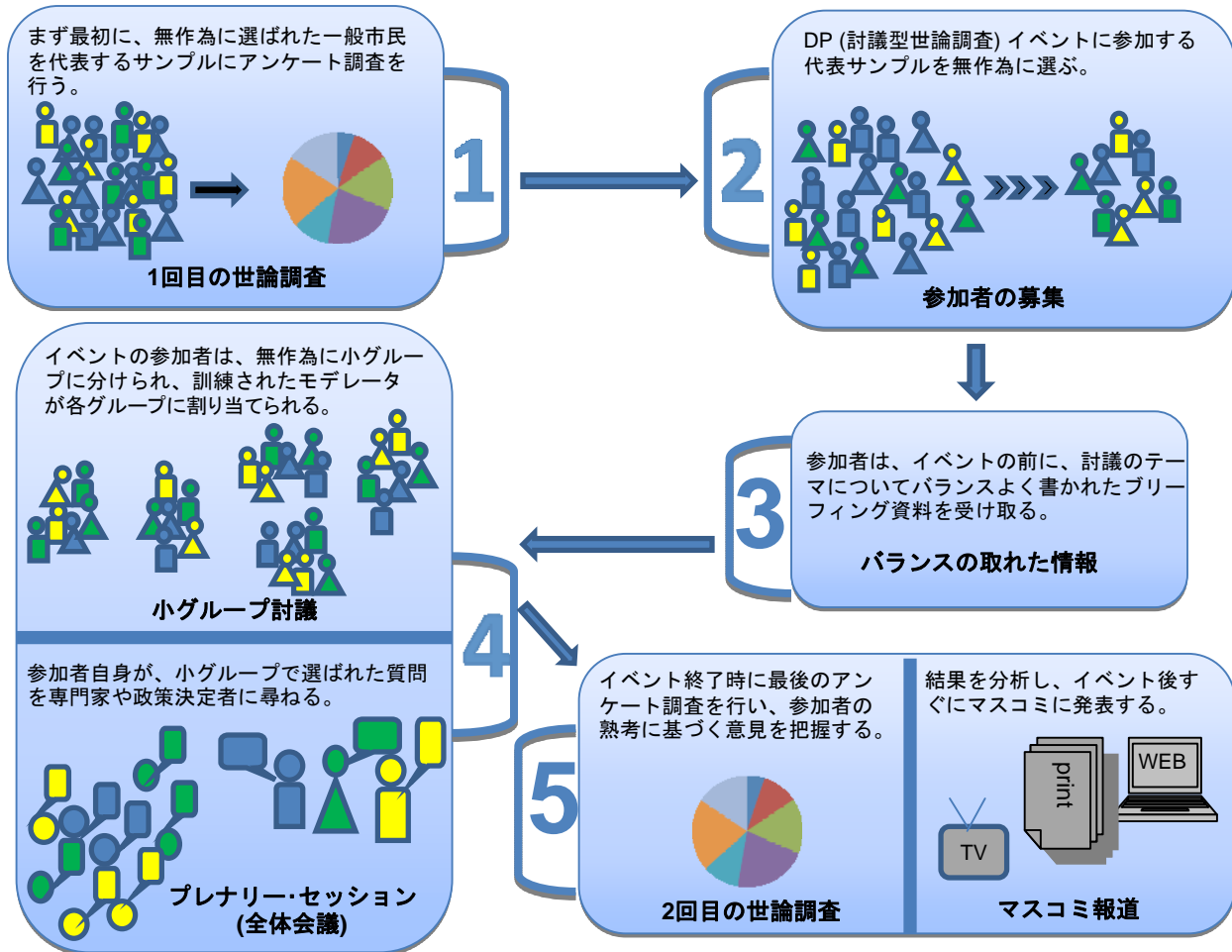
<http://cdd.stanford.edu>

問題

一般市民は重要な公共問題について十分な情報を知らないことが多く、従来型の世論調査では、サウンドバイトや見出しから受けた表面的な印象しか明らかになりません。一般市民は、相容れない問題に正面から向き合う理由や、時間と努力を費やして情報を収集したり、熟考した上で結論を出す理由をほとんど見せず、社会学者が「合理的無知」と呼ぶ状態に陥っています。

取り組み

Deliberative Polling® (DP) は、世論調査に新しく建設的な手法を取り入れ、人の顔の見える結果を表そうとする取り組みです。



プロジェクト Deliberative Polling®のプロジェクトには、対面式とオンライン式の2つの方式があり、アメリカを始めとする世界の多くの国々で実施されています。以下に一部の例を紹介します。



国レベルのプロジェクト：
アメリカの外交政策、医療、教育、21世紀の市民の権利と責任など、市民が直面する問題をテーマに、CDDとMacNeil/Lehrer Productionsが実施。



州レベルのプロジェクト：
バーモント州、ネブラスカ州、テキサス州(8件のプロジェクト)、ノバスコシア州(カナダ)で、エネルギーの選択肢に関するDPを実施。将来のエネルギーニーズをどのように満たすかについての指針を示した。



EUレベルのプロジェクト：
CDDとヨーロッパの協力者が、初の全EUのDPを実施。加盟27ヶ国から無作為に選ばれた360人を超える市民が参加し、23の言語で討議を行った。



中国のプロジェクト：
浙江省澤国鎮ではこれまでに3回のDPを実施。住民の意見が地元自治体の予算決定に影響を与えた。